



わが家のカレーライス

高崎市立東部小学校 5年 佐藤 史夏

わたしは、わが家のカレーライスが好物です。夕食の時、カレーライスのおいがしてくると、うれしくなります。わが家のカレーライスには、具材がたっぷり入っていて栄養がほう富です。でも魅力はそれだけではありません。

いつの日か、先生に友だちとおこられて、落ちこんでしまった時がありました。どんよりしながら家に帰ると、その日の夕食はカレーライスでした。それでもわたしは、ふだんのように喜ばませんでした。けれど、一口カレーライスを食べると思わず、

「おいしい。」

と言葉がこぼれてしまいました。すると母は、

「おいしいでしょう。いやなことがあった時こそしっかり食べなさい。」

と言いました。思わず涙がこぼれてきました。こんな優しい味があるんだと、母の料理にこめられた愛情を初めて実感しました。

わたしは、こんな経験を弟にも知ってもらいたいと思いました。わたしの弟は、元気がない時にはカレーライスを食べたがりません。気分が落ちこむとふさぎこんでしまって、誰とも話したくないし、何もしたくなくなってしまうものです。それは、以前のわたしも同じでした。だからこそ、弟にもわたしから声をかけて、優しい味を知ってもらいたいと強く思うのです。

地域のバザーやボランティアでは、炊き出しが行われているそうです。炊き出しのメニューといえばおにぎりや豚汁、カレーライスが定番です。それは、食べやすくて、栄養がほう富だからだけではなく、家庭の味や優しい味が感じられるからだと思います。地域の人々と集まって、色々な話をしながら団結感や連帯感をつけるにはもってこいの「味」だと思います。わが家のカレーライスにもそんな「味」があるから、魅力的なんだと思います。

思い出やつらい経験を通して、家庭の味には深みが増してくるものです。おいしい料理には、おいしく感じる理由があるはずです。それは単純に作る人が上手だからとか、食材が良いからではありません。作る人の思いや、食べる人がどう味わうかによるんだと思います。そんな料理がわたしにとっては、わが家のカレーライスなんだなと思います。